

ブラジル政治経済情勢と日伯関係

島内 憲

我が国のベストパートナー：ブラジル

(1) 新興国の優等生

資源大国、民主主義の定着、適度な人口、多民族のダイナミズム
⇒米国型超大国の可能性

(2) 世界一の親日国

「ビルトイン」された親日

(3) 科学技術協力におけるWin-Win関係

新成長分野の開拓、地球規模課題取り組み



我が国の繁栄確保の鍵を握る国

新興国の優等生として世界から注目

- (1) 2010年の年間GDP成長率 : 7%以上の見通し
健全な経済運営による安定的な政治経済
→投資適格国、純債権国へ
2016年リオ・オリンピックまでに世界第5位も?
- (2) 他BRICs諸国・新興国との決定的に異なる
➡「米国型超大国」としての特徴

ブラジルの特徴

- 多様かつ豊富な資源
- 適度な人口規模
→輸出余力維持・安定市場
- 民主主義の定着・健全経済運営
→先進国型の安定したガバナンス
- 多民族社会のダイナミズム



多くの新興国が抱える問題点

- モノカルチャー経済
- 人口・資源圧力
- 外需依存経済
- 地政学的リスク
- 権威主義的政治体制
- 民族紛争・宗教紛争・テロ

- (3) 国際舞台における世界主要プレイヤーとしての役割拡大
→新興国の良識派として我が国と基本的価値観を共有
- 安保理改革パートナー
 - BRICsにおける唯一の非核兵器国
 - 高い環境意識: クリーンエネルギー大国、野心的な気候変動対策

ブラジル潜在力（1）多様かつ豊富な資源

広大な国土：面積：851万 km²（世界5位）

世界の淡水の5分の1 / 世界の熱帯雨林の3分の1

耕地面積：約7,670万ヘクタール

→森林保全しながら潜在的耕地面積は2億ヘクタール
世界最大の農業ポテンシャル

<鉱物資源>

◆石油：大規模深海油田（プレサル層）の発見
2020年には生産量世界5位を目指す。

◆鉄鉱石（生産量2位：輸出量世界一位）

◆ボーキサイト（生産量3位）

◆マンガン（同5位）

◆レアメタル

ニオブ：埋蔵・生産1位（世界の96%）

タンタル：埋蔵1位・生産2位

（レアアースの潜在性）

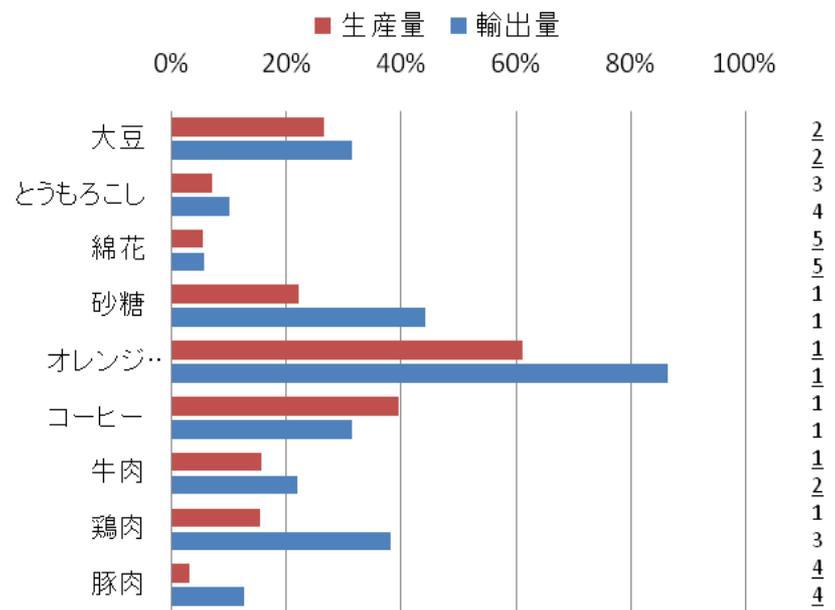
◆ウラン（確認埋蔵量6位：世界1位の可能性?）

<再生可能エネルギー>

◆エタノール（輸出量1位、生産量2位）

◆風力（潜在力14万メガW、三峡ダムの7倍）

ブラジル農畜産物の世界シェア(2009)



出典：USDA-PSDより作成

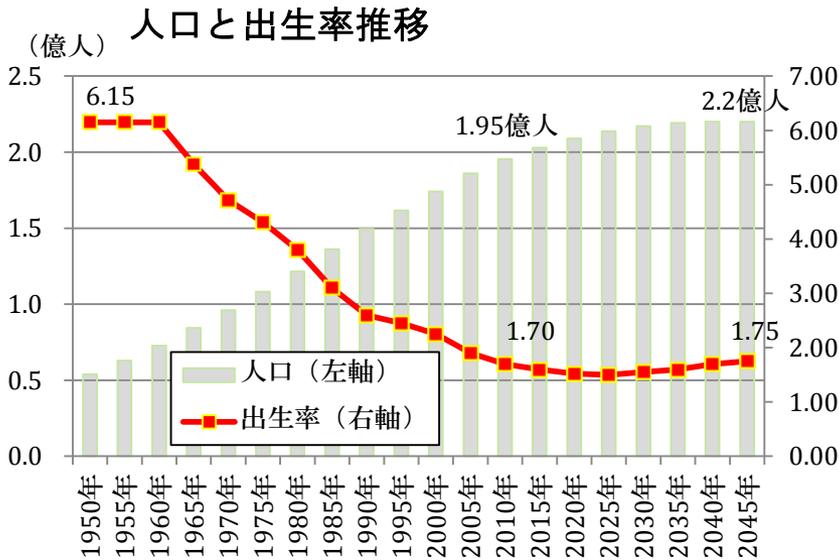
世界シェア順位

ブラジルの潜在力 (2) 人口・中高所得者層市場

世界第5位の人口：
1億9千4百万人 (2009年)

圧力とならない適度な人口規模

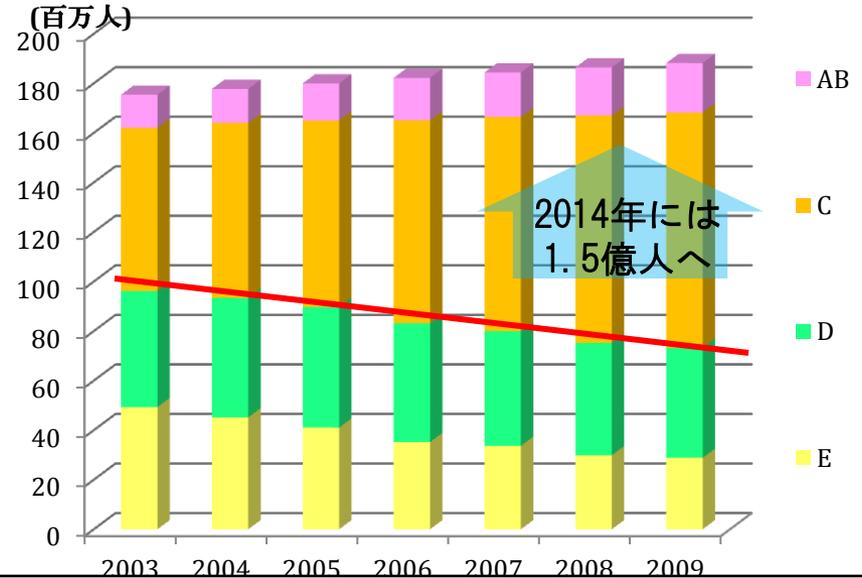
①食糧・資源の輸出余力の維持 両立



(出所) 国連 World Population Prospects

出生率は1.75で先進国型
最終的に2億2千万人で横ばい

②中産階級化が進む魅力ある市場規模



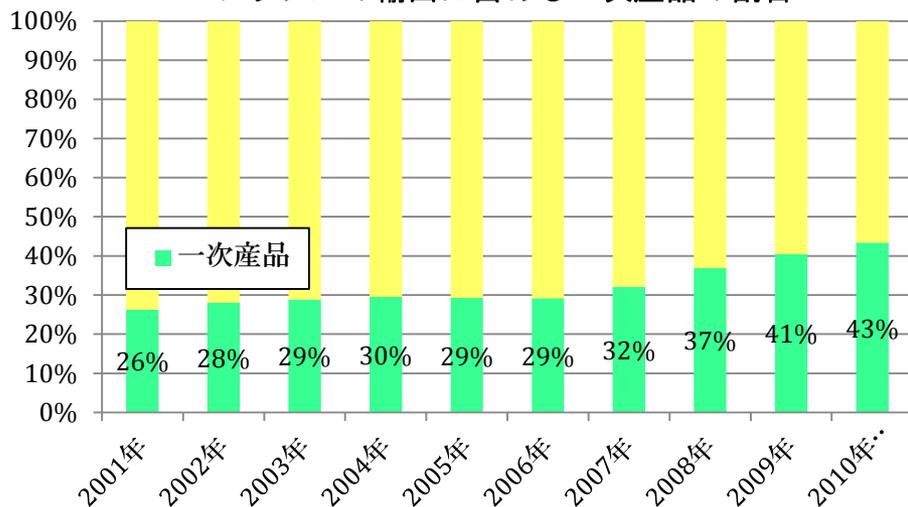
中・高所得層 (ABCクラス：月収1115リアル以上 (約650ドル)
人口1.15億人：新興国の中間層の4分の1

消費意欲旺盛な巨大市場 (2010年)：上級マーケット志向
自動車販売340万台見込 (世界4位) / 薄型テレビ750万台
パソコン1200万台 (世界5位：3位も視野に)

ブラジルが抱える課題

①輸出の一次産品依存率の上昇

ブラジルの輸出に占める一次産品の割合



(出所) ブラジル開発商工省 Barança Comercial Brasileira

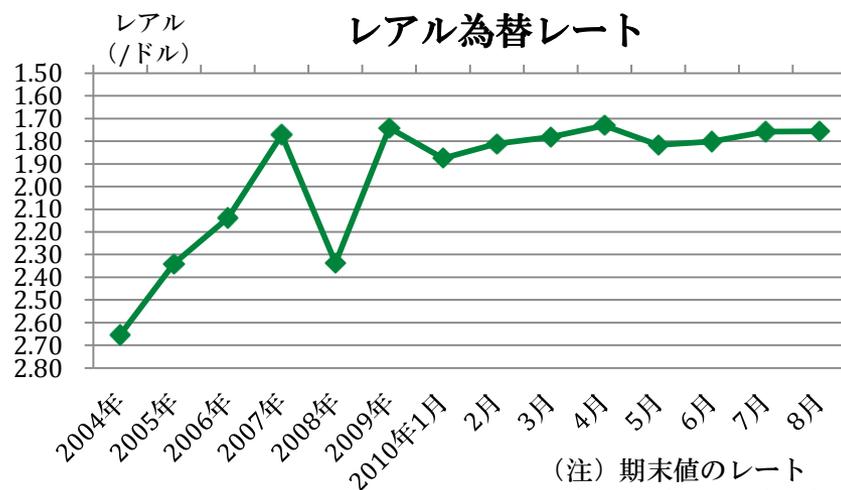
④インフラ整備の立ち遅れ

⑤大都市の治安

②高い「ブラジルコスト」

- 複雑な税制、高い税負担率
- 財政負担の大きい年金制度 (年金予算はGDP比の11.7%)
- 被雇用者に有利な労働法制

③レアル高



(注) 期末値のレート

(出所) ブラジル中央銀行

政治経済的に決定的なネックは存在しない。

→強力なリーダーシップにより克服可能：着実に良い方向へ

課題克服への取り組み：成長加速プログラム（PAC）

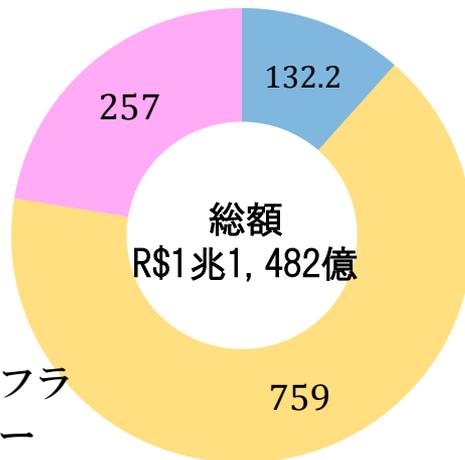
成長加速プログラム（PAC） → インフラ不足解消へ

インフラ整備を中心にエネルギー、社会都市開発投資を官民一体で促進。

PAC 1：2007年1月：第2期ルーラ政権下で始動。

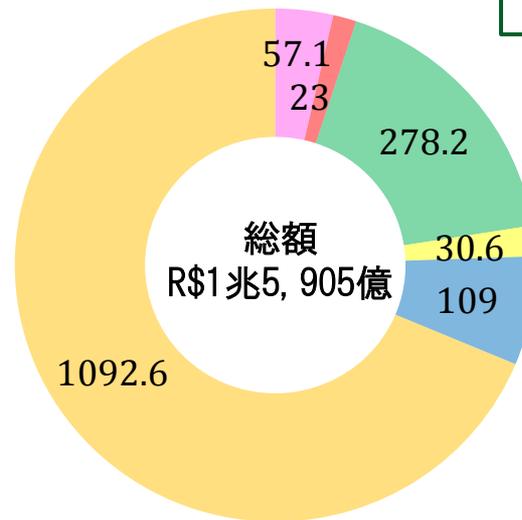
PAC 2：2011年から2014年に向けた投資計画

PAC 1



- 輸送インフラ
- エネルギー
- 社会・都市開発

PAC 2



- 都市環境整備プロジェクト
- 住民サービスプロジェクト
- 低所得者向け住宅プロジェクト
- 水道・電気全国普及プロジェクト
- 輸送・物流プロジェクト
- エネルギー・プロジェクト

PAC1, PAC2に加え、2014年にブラジルで開催されるワールドカップに向けたPACワールドカップ、2016年にリオデジャネイロで開催されるオリンピックに向けたPACオリンピックも用意され、社会の多様な分野におけるインフラ整備が急ピッチで進められている。

課題克服へ取り組み（貧困層の縮小）

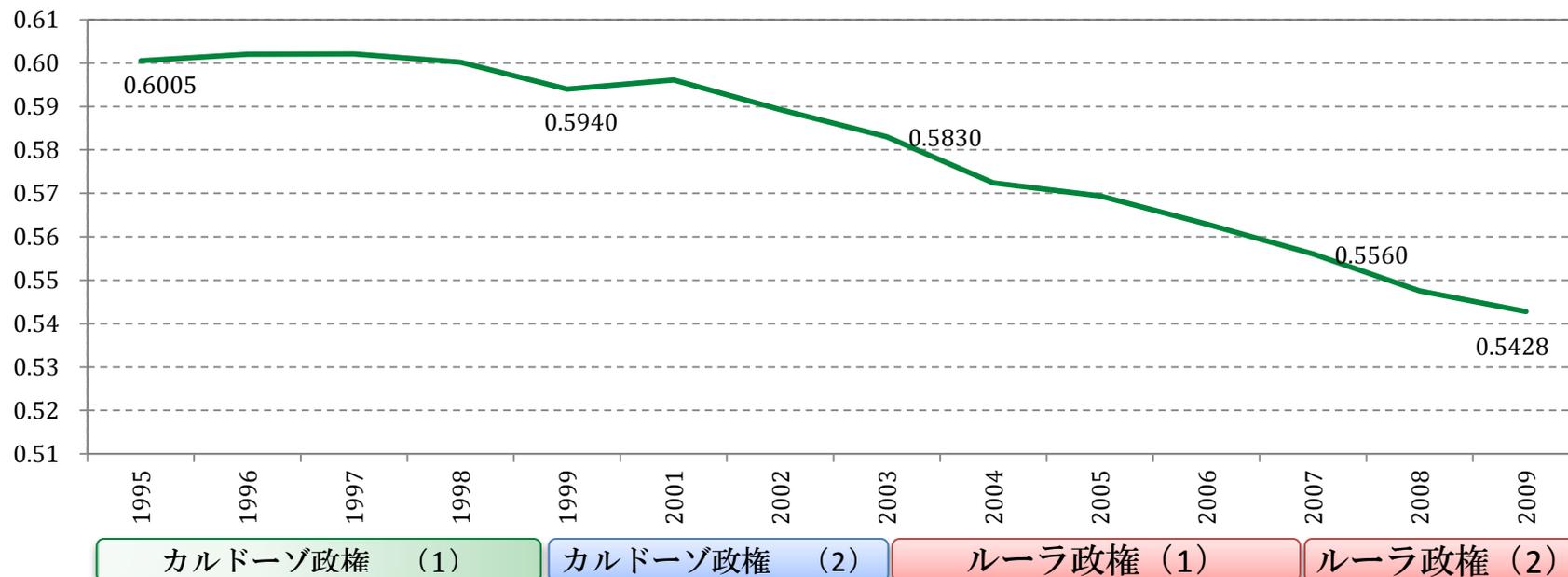
貧富の格差の改善・新中間層の拡大

貧困家庭に対する給付金／ルーラ政権下での社会政策

→治安問題の改善

B R I C s 中で貧富の格差が縮小した唯一の国

ジニ係数の推移

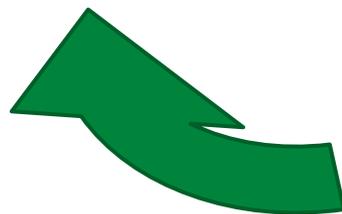


(出所) IBGE (ブラジル地理統計院)

最近顕在化した諸問題

ルーラ政権末期に顕在化した問題

- 官僚機構の肥大化・財政支出増大
- 資源管理への国家介入
 - 石油関連法改正・金属資源法議論
 - ペトロブラスVALEへの介入
- 外交政策(イラン核問題等)への批判



○ブラジルにとって

インフレ対策・健全財政は国是

○先進国的価値観

○成熟したマスコミ・市民社会

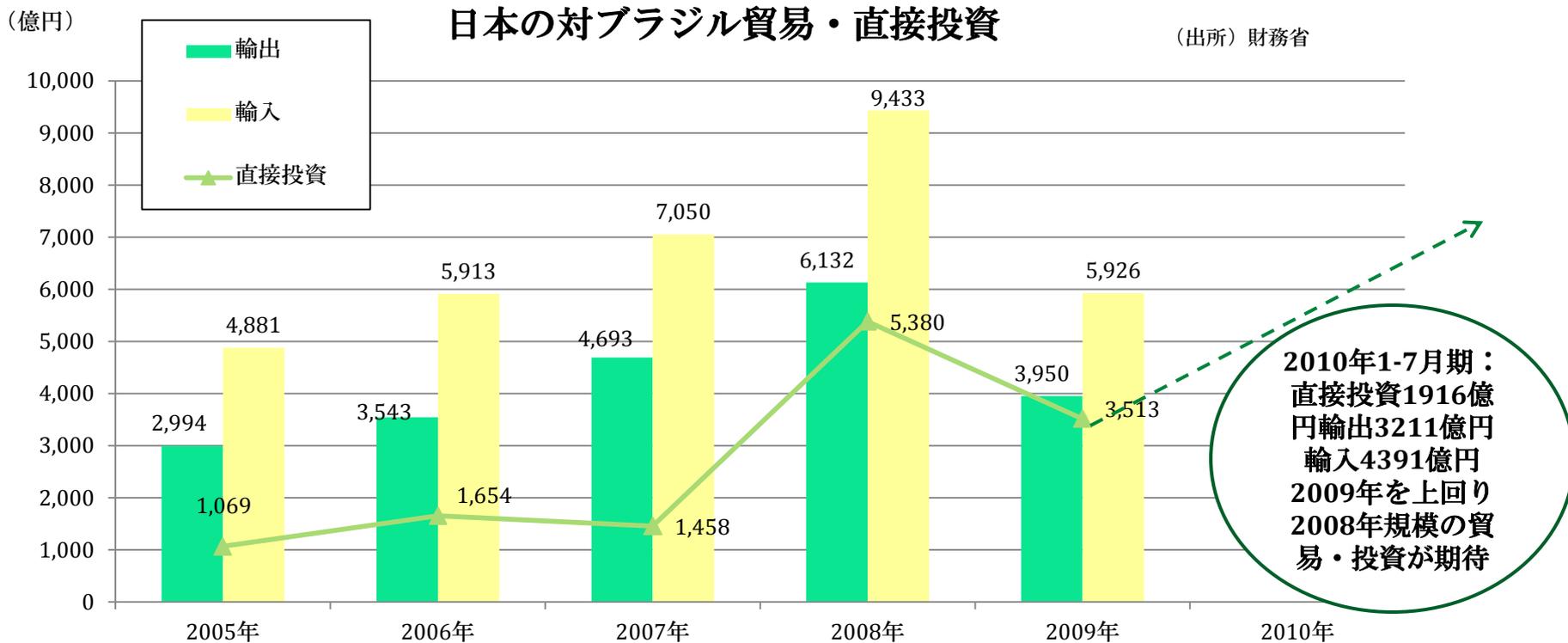
→チェック・アンド・バランスが
存在し、機能している。

世界有数の資源国として国際社会へ与える影響は大きく注意を要する。
ブラジル側経済界、政治レベルとの対話の強化は極めて重要

日伯関係の進展(1)

日本企業のプレゼンスの急速な増大：

日本の対ブラジル貿易・直接投資及び日本企業進出の増加



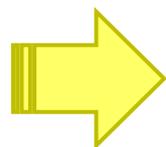
日伯関係の進展(2) 世界一の親日国

- (1) 150万人の日系人+数千万の「拡大日系社会」
- (2) 両国官民の協力による大規模ナショナルプロジェクトの歴史
(製鉄、アルミ、紙パルプ、農業開発等)
- (3) 政府開発援助(O D A) 50年の歴史



ブラジルの基本構造に組み込まれた親日

- ・ブラジルの政界・経済界・法曹界・技術者各界エリート層における日系人、親日層の存在。絶大なる信頼

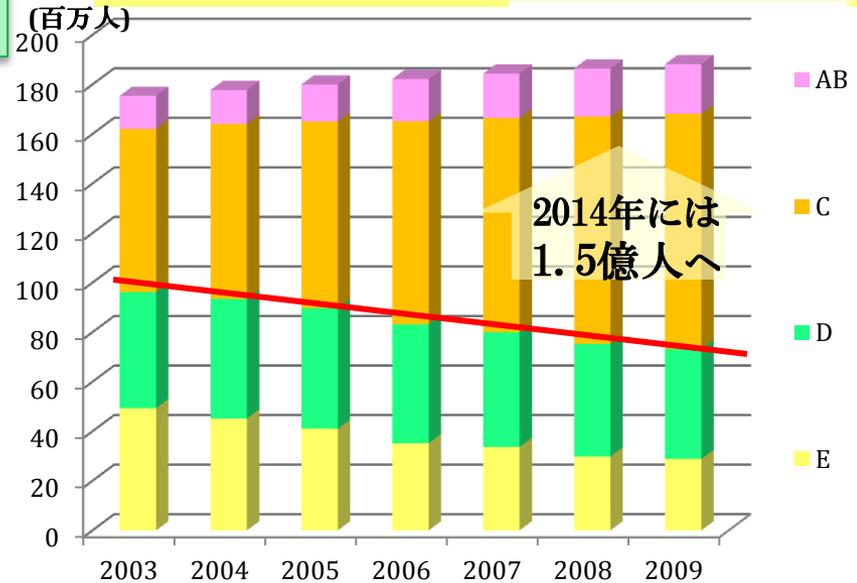


中韓のみならず欧米諸国に対しても比較優位

日伯関係の進展 (3) 拡大する市場

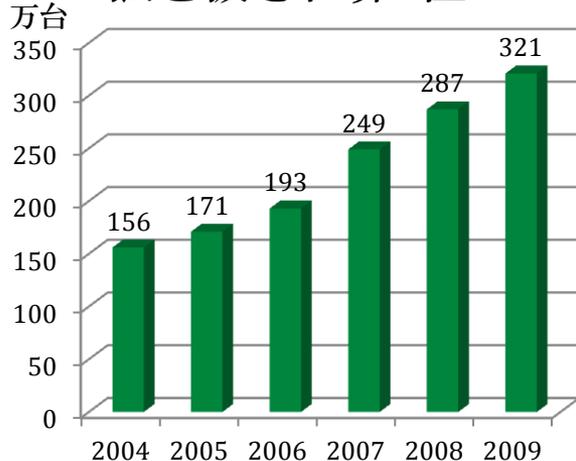
新興国の中間層の4分の1：
 中・高所得層人口1億1500万人
 (ABCクラス：月収1115レアル (約650ドル) 以上)

先進国型：上級マーケット志向
 → 日本ブランドの高い評価



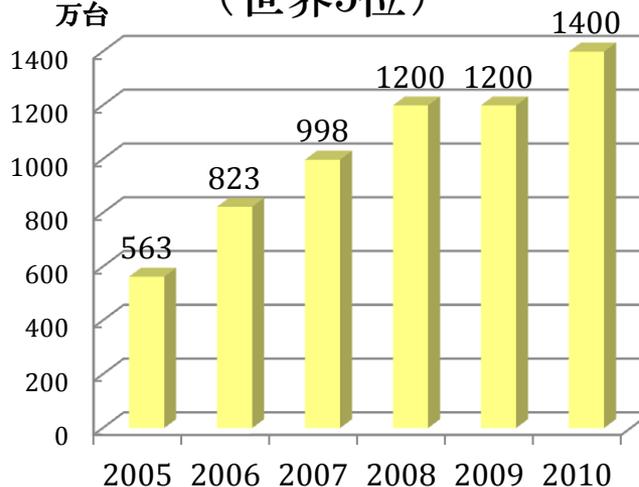
自動車販売台数

2010年340万台
 独を抜き世界4位へ



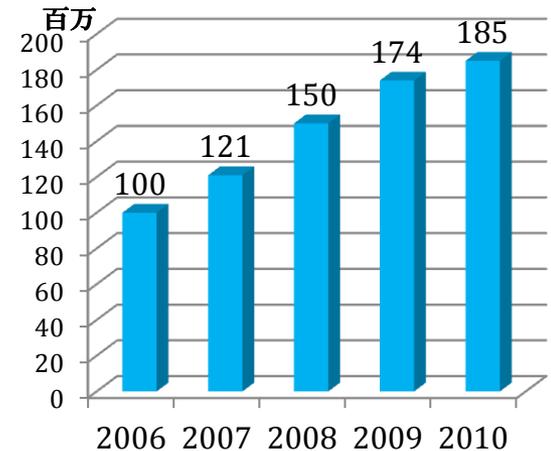
パソコン販売台数

販売台数1200万台09年
 (世界5位)



携帯電話契約件数

契約件数世界5位
 販売台数5090万台 (09年)



21世紀型相互補完関係

最新世代の日伯協力

日伯の伝統的相互補完関係： ブラジルの食糧・資源、巨大市場
→日本にとっての貿易・投資の重要なパートナー

現状 資源・食糧・市場を巡る欧米中韓との熾烈な競争

他国にはない比較優位を持つベストパートナーとして再認識が必要

日本
最先端科学技術
日伯技術移転の歴史
革新的な独自先端技術
資金力



新たな付加価値
相乗効果を生む
21世紀型補完関係

ブラジル
一次産品依存からの脱却
悲願の産業の高付加価値化
高い付加価値化力/途上地域の
トップリーダーとしての底力

ブラジルの発展のみならず日本の世界展開を促す

→成功例：デジタルテレビ協力(日本方式を改良した日伯方式が南米制覇)

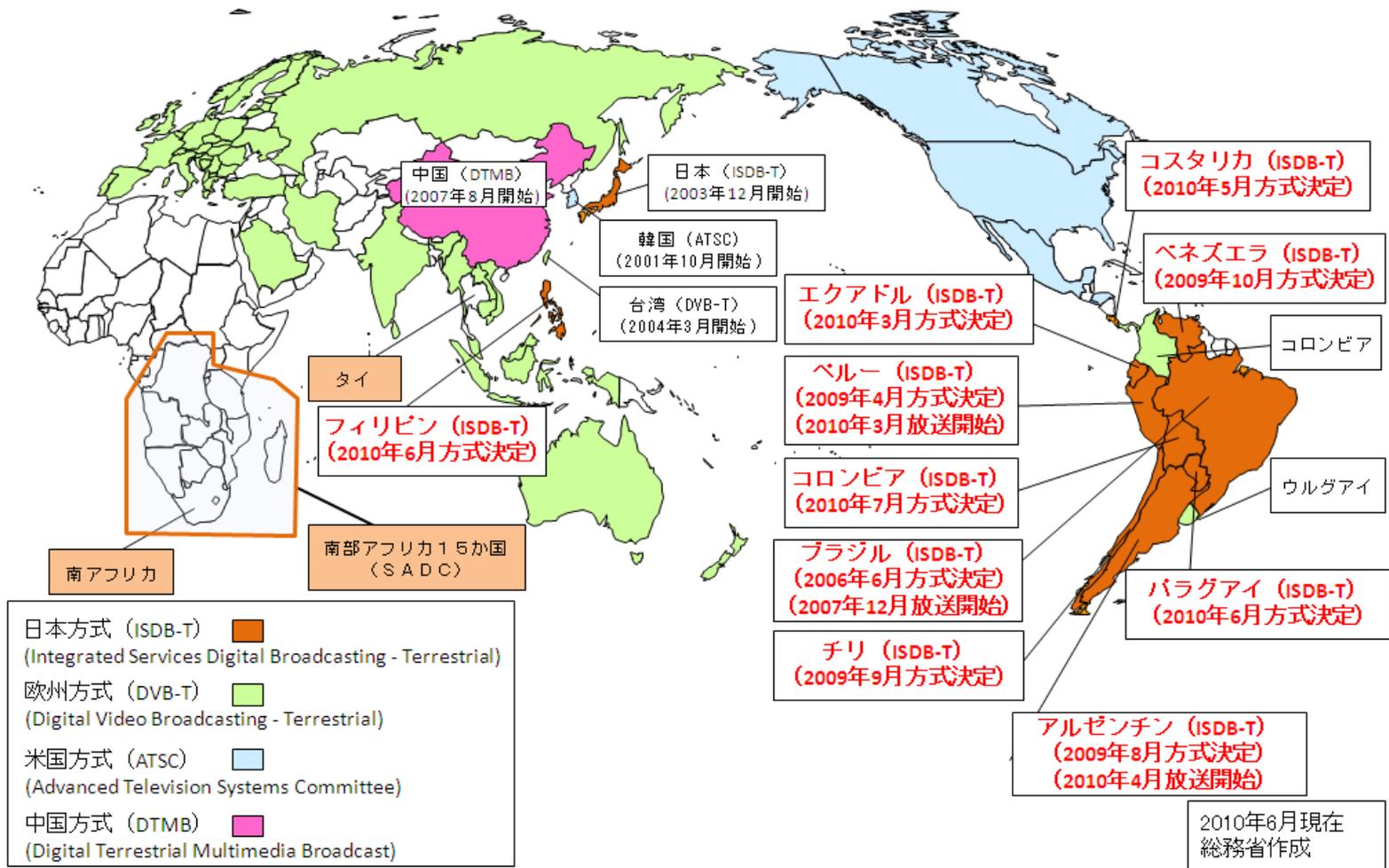
今後期待される分野

- アフリカ農業協力
- 高速鉄道計画
- 環境/グリーン・イノベーション
- 宇宙分野協力
- 深海油田開発

地球規模課題取組における
リーダーシップ発揮と同時に
新たな成長市場の開拓

21世紀型日伯関係:デジタルテレビ

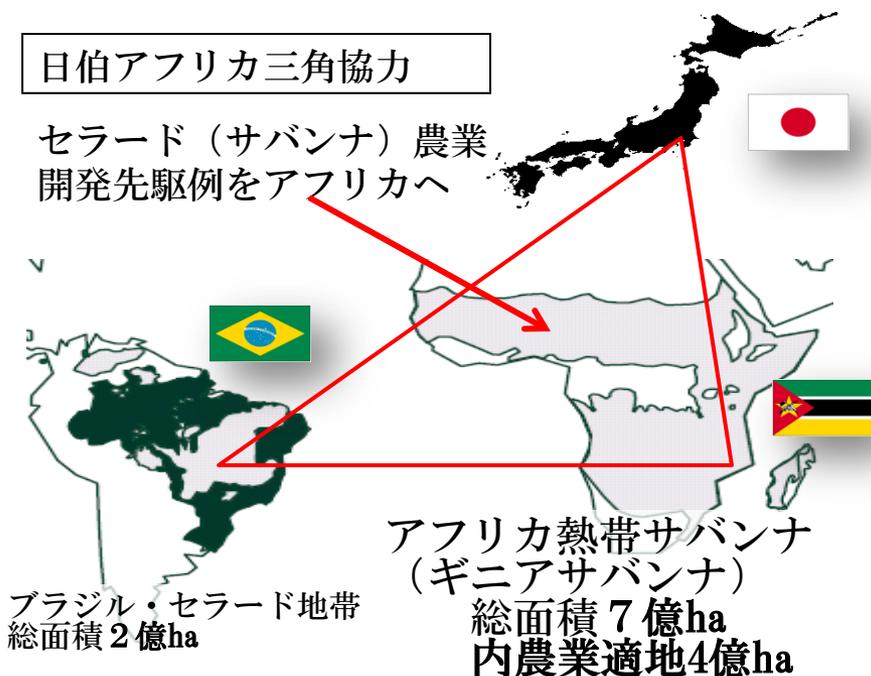
国際標準競争において日伯方式普及が育む新たな協力モデル：
南米制覇も間近、他大陸への拡大も大いに期待。



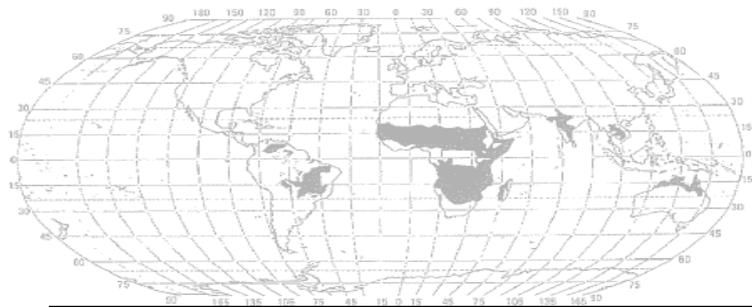
21世紀型日伯関係：日伯三角協力アフリカ熱帯サバンナ農業開発

日伯アフリカ三角協力

セラード（サバンナ）農業
開発先駆例をアフリカへ



地球規模での貢献



世界の熱帯サバンナ分布図 (20億ha)

協力概要

- 日伯三角協力：
モザンビーク熱帯サバンナ地域に、
持続可能な農業開発・食糧生産モデルを構築
- インフラ整備協力との相乗効果

日伯協力の重要性・メリット

- ブラジルを世界の大豆供給基地へと成長させた、20年の日伯ブラジル・セラード（熱帯サバンナ）農業開発の経験
- 世界トップレベルの熱帯農業技術を有し、
アフリカ協力を進めるブラジル

将来構想（長期構想）

- モザンビークの成果をアフリカの広大な熱帯サバンナへ拡大
 - アフリカ地域に持続可能な市場型農業開発を普及・拡大させる。
- アフリカ発展と世界の食料安全保障に貢献

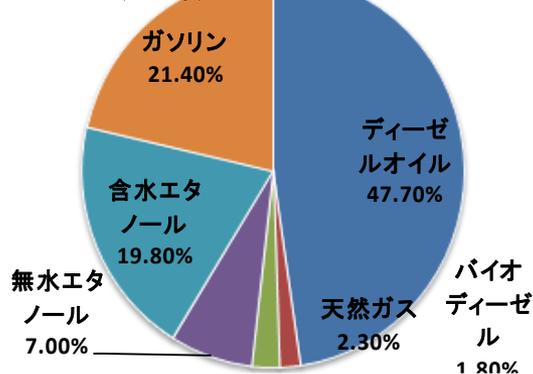
21世紀型日伯関係 環境

世界最大の再生可能エネルギー大国ブラジル

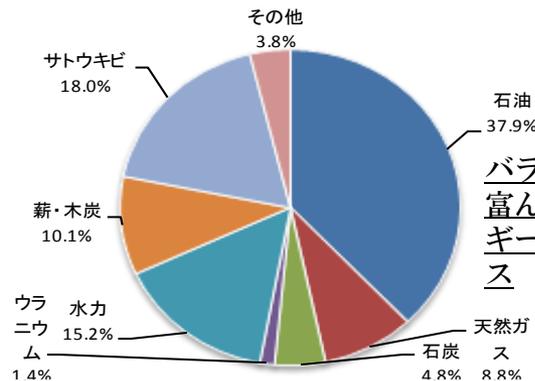
課題：→森林保全（炭素排出の7割は森林減少由来）

→増大するエネルギー需要への対応

ブラジルの自動車燃料マトリックス
(2009年)



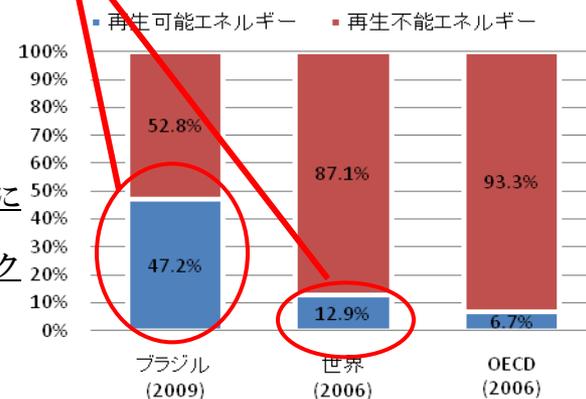
ブラジルのエネルギーマトリックス
(2009年：243.7tep(石油換算トン))



バラエティーに
富んだエネ
ルギーマトリ
ックス

世界と比較して
約4倍!!!

エネルギーマトリックス
(再生可能エネルギーの割合)



普通自動車燃料の
54%はバイオ燃料

期待される日伯協力

→環境グリーンイノベーション

→地球観測の協力（森林監視：宇宙分野協力）

21世紀型日伯関係：グリーン・イノベーション

2014年ワールドカップ、2016年リオデジャネイロオリンピック
世界的グリーンイベントに向けた多様な協力の可能性

ブラジル電力需要：

経済成長年率5.1%→電力需要は同5.2%増
○ワールドカップ・オリンピックを経て
経済成長率6～7%
→電力需要は10年で2倍

○大規模電力投資

100億ドル規模発電所

○風力発電

→14万MWの潜在性
(三峡ダム of 7倍)
第一回事業権入札
71事業110億ドル

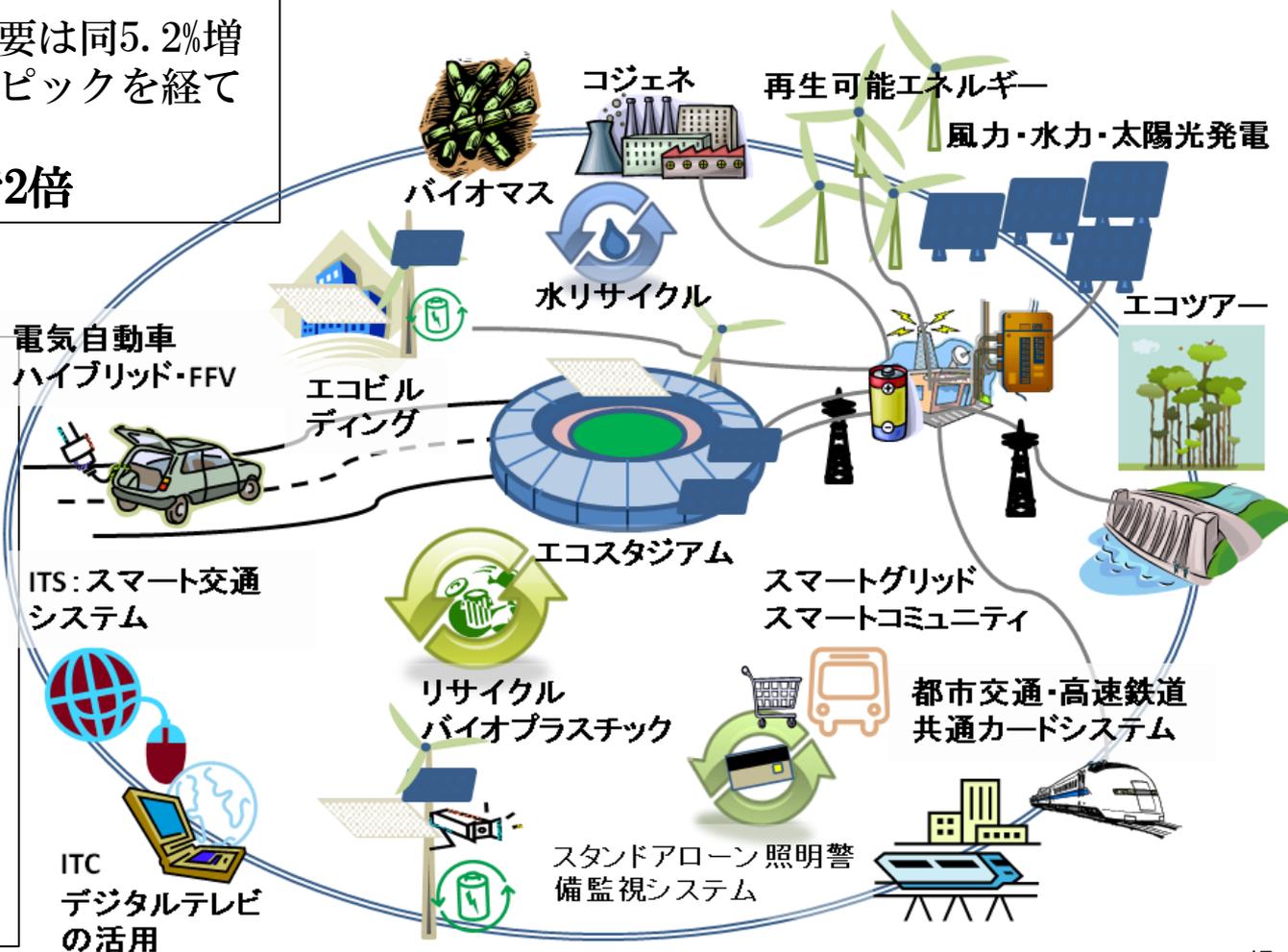
○原子力発電所建設

○大規模送配電投資

○省エネ効率化

○スマートグリッド

○スマートコミュニティ



21世紀型日伯関係：宇宙分野協力

ブラジルの広大な国土(日本の23倍)

→衛星観測への多様な実需

- 森林監視・管理
- 土地利用ゾーニング
- 気象観測・農業利用
- 海洋モニタリング

Win
Win

日本の科学技術

- 地球規模課題におけるリーダーシップ発揮
- 日本の科学技術の実践的な活用
→自律的科学発展維持
- 新たな成長市場・フロンティアの開拓

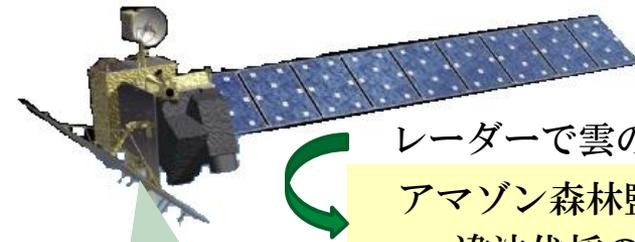
気候変動対策への活用：REDD+協力

(森林劣化・減少による炭素排出削減)

世界規模での観測システム構築に向けた課題

- 衛星による森林減少に由来する炭素量変化の把握
- 熱帯林は雲に覆われ光学センサー衛星監視は限界
- 日本：ALOSで培ったレーダー衛星による森林観測
- ブラジル：熱帯林国で唯一、衛星での森林監視体制を構築

陸域観測技術衛星「だいち」ALOS による違法伐採対策協力



レーダーで雲の下も監視
アマゾン森林監視体制において
違法伐採の抜け道を塞ぐ



ブラジル・アマゾン森林伐採を半減
→年間1~2億トンのCO2排出削減

地球観測網の構築・データ標準化協力

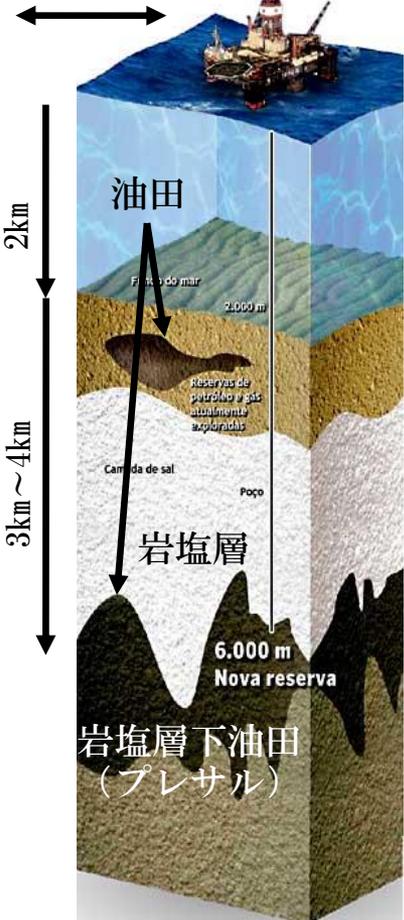
- 地球規模課題への貢献
- 新たな宇宙関連産業の拡大

21世紀型日伯関係：深海油田開発

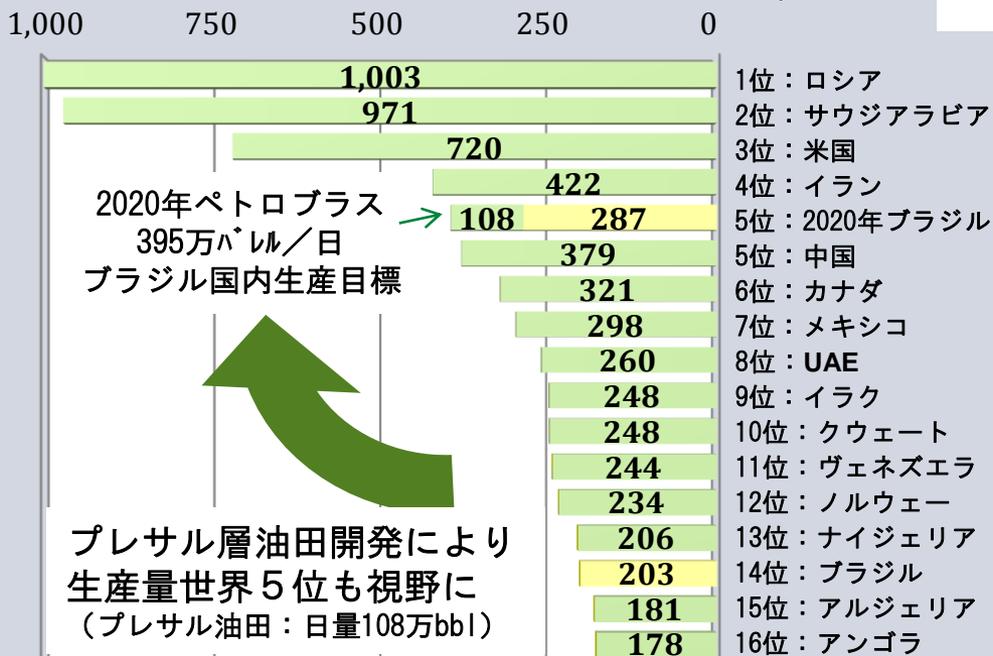
深海油田開発によって世界5位の産油国へ複数の桁外れのビジネス機会を提供

プレサル層油田イメージ

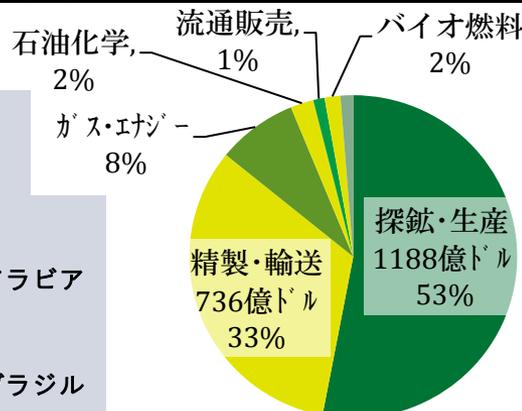
沿岸まで
200~300km



国別石油生産ランク：2009年



ペトロブラス社2010-2014年5カ年投資計画：2,240億ドル



多大なビジネス機会を提供

例：☆ドリルシップ

FPSO (浮遊設備)

→ 5億~10億ドル

☆製油所建設

→ 100億ドル規模

技術的課題

- 海洋モニタリング
- 浮体設備の安定係留
- 洋上ガス液化

Win Win

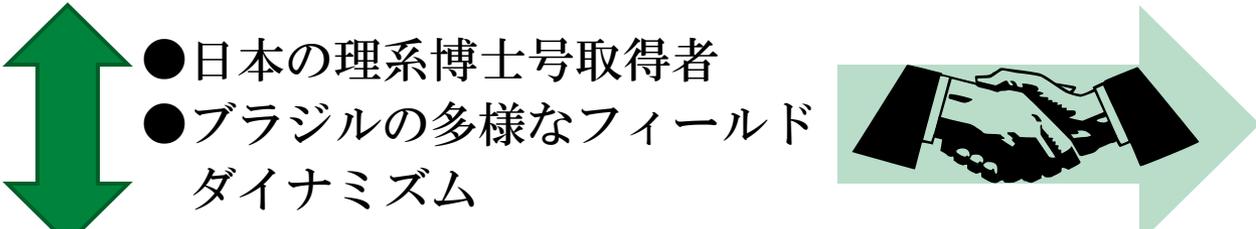
日本の海洋・科学技術の活用

- 海洋・造船分野を中心に、日本の科学者・技術者に活躍の場を提供
- 新たな成長のフロンティア開拓。

21世紀型関係 成長を促す新たな日伯科学技術協力

日本：

高い科学技術力を有するも応用分野・フィールドに限界
→専門化・細分化が進み、実用的でない研究に批判

- 
- 日本の理系博士号取得者
 - ブラジルの多様なフィールドダイナミズム

新成長フロンティア開拓
地球規模課題取組での活躍

ブラジル：日伯双方の成長を促す

新ビジネスに直結する多様な科学協力ニーズ
(資源開発・海洋開発・宇宙・環境分野・農業)

○ブラジル科学技術分野にも「ビルトイン」されている親日

→日系社会は重要基盤を提供

すでに存在する日本人研究者受け入れ土壌（上記分野でも活躍する日系人教授多数）

参考：名門：サンパウロ大学

学生数総数：90,000人（学部学生数：55,000人，大学院生数35,000人）

うち日系人：12,600人・・・14%（工学部、医学部では2割を超える）

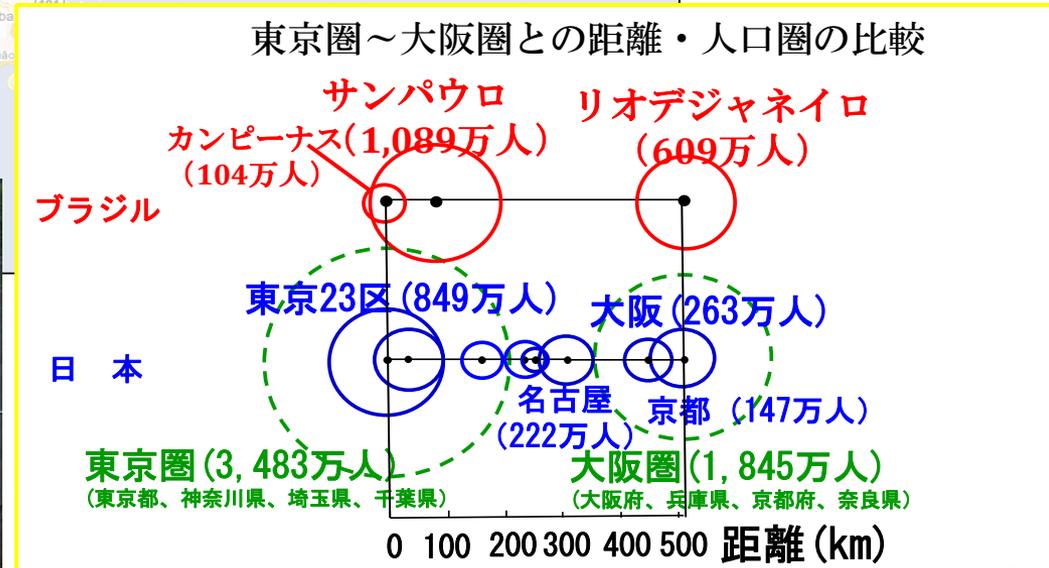
教員総数：5,000人，うち日系人：8%

特に工学部では日系若手研究者の多大な貢献があるとの伯政府高官の認識。

（ブラジルの人口に占める日系人の割合：0.8%）

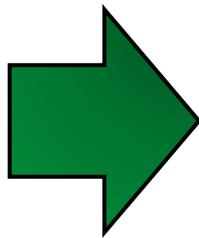
リオ・サンパウロ・カンピーナス間高速鉄道

- 総額1.7兆円と見積られる世界最大規模のプロジェクト
- 我が国の企業連合も入札参加に向けて準備
- 日本の新幹線技術の優位性は明白。政府は日本企業連合を全面的にサポート



新興国外交とブラジル

- 基本的価値観の共有
- 安保理改革の重要パートナー（G4）
- BRIC s 中唯一の非核兵器国
- 気候変動等重要グローバル問題において基本的利害を共有
- 世界一の親日国



- ①ブラジルが国際社会において発言権を増すことは、我が国の利益
- ②我が国のグローバル戦略においてブラジルに適切な位置づけを

二国間関係における人的要素の重要性：日系人の活躍

日本の外交資産：「信頼感」
→ 日本の総合的ソフトパワーは世界でトップクラス

ブラジルではこの「信頼」の獲得に
日系人が大きな役割



日系人が要職で活躍する分野が拡大
(特に「官」)



エリート日系人との連携は
今後の対ブラジル外交の重要課題

おわりに（皆様へのメッセージ）

最大の問題は距離と知識不足



ブラジルの潜在力と
ブラジル人の親日ぶりを体感しに
是非ブラジルに足を運んで頂きたい
「百聞は一見に如かず」

